

“もしも”に備えて ～水の備蓄のしかた～

1 飲料水の確保

大人1人が生きていくためには、最低1日3ℓの飲料水が必要といわれています。また、救援物資や復旧体制が整うまで、災害発生から3日程度かかるといわれています。

災害に備えて



の、飲料水を用意しましょう。

4 注意！

ただし、水道水は長時間置いておくと、消毒のための塩素がだんだん抜けていきます。

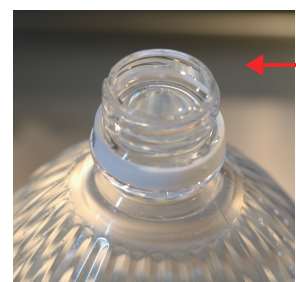
水道水を飲料水として備蓄するのであれば、3日程度を目安に水をくみ替えなくてはなりません。

くみ替えは大変！
飲料水は、保存年限が
長い市販のボトル水を用
意しようかな…



2 備蓄のしかた

水道水をくみ置きするときは、清潔で、ふたのできる容器の口元いっぱいまで水を入れて、直射日光の当たらない涼しい場所で保管してください。



容器の口元いっぱいまで水を入れる



直射日光の当たらない涼しい場所で保管

5 水の備蓄は役立つ

しかし、飲料以外にも生活の中では、多く水を利用します。水道水のくみ置きをしたり、お風呂の残り湯をため置きしておけば、水洗トイレや初期消火用水としても、いざという時に役立ちます。

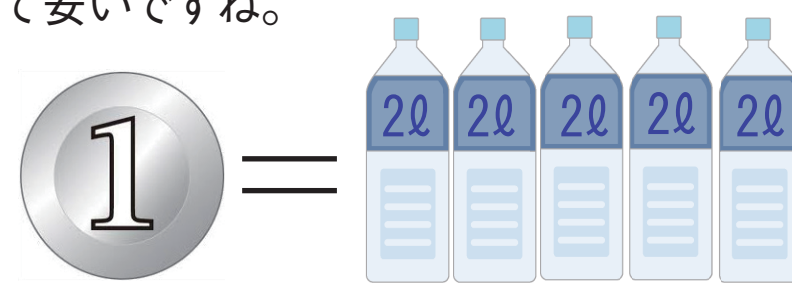
備蓄した水道水は、
もしもの時のトイレ用
にとっておこうと♪



3 水道水で備蓄すると安い

倉敷の水道水は、ミネラルウォーターを買うより安いんです。なんと、1円で2ℓのペットボトル約5本分(10ℓ)の水道水になります。

たった1円で、大人1人が3日間に必要な量(9ℓ)を備蓄できるなんて安いですね。



6 日ごろから準備を

また、災害で断水になった時には、水道局が給水車などで応急給水に向かいます。

飲料水を入れる清潔なポリタンクなどの容器も、“もしも”に備えて準備しておきましょう。

